

用語解説

用語解説

【あ行】

暗渠排水	水田を必要なときに乾田化するための方策の一つ。
エコファーマー	「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、堆肥などによって土地の力を高める土作り技術に加え、化学肥料や化学農薬の使用を減らす技術に一体的に取り組む導入計画を県知事に提出し、認定を受けた農業者（個人及び農業生産法人）。
アクティブシニア	自分なりの価値観をもち、定年退職後にも、趣味やさまざまな活動に意欲的な、元気なシニア層。

【か行】

環境保全型農業	農業の持つ循環機能を活かし、生産性との調和に留意しつつ、土づくりなどを通じて、化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した農業。
カンントリーエレベーター	穀物の乾燥・選別・貯蔵などを行う農業施設。貯蔵用サイロと、これに穀物を搬入するためのエレベーターなどからなる。
基幹作物	ある地域において、生産量・面積・販売額など栽培の中心となっている作物のこと。
G A P（農業生産工程管理）	農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと。
共販	一定のまとまりを持った集団が共同して組織的な市場対応を行うことをいい、農産物の場合は、生産農家が農協組織等出荷団体を通じて出荷する場合や選果、出荷代金計算のいずれかを共同して販売することを指す。
ぐるっと山口 道の駅特産市	市内各道の駅や農産物直売所が1箇所を集結し、それぞれで販売している農水産物、商工産品を消費者に知ってもらい、今後の消費拡大、地産地消につながることを目的とした特産市。
耕作放棄地	以前耕地であったもので、過去1年間以上作物を栽培せず、しかも、この数年の間に再び耕作するはっきりした意思のない土地のこと。
耕畜連携	米や野菜等を生産している耕種農家へ畜産農家から堆肥を供給したり、逆に転作田等で飼料作物を生産し、畜産農家の家畜の飼料として供給する等、耕種サイドと畜産サイドの連携を図ること。

【さ行】

再生可能エネルギー	太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など自然に由来し、一度利用しても再生可能であり、資源が枯渇せず、永久的に使用できるエネルギー。
サプライチェーン	製造した商品が、消費者に届くまでの一連の工程(プロセス)のことから、サプライ(供給)チェーン(連鎖)という。
施設園芸	ビニールハウスやガラス温室などの施設を利用して野菜や果樹、花き等を栽培する経営。1年を通して栽培できるなどの特長がある。
集落営農	集落を単位として、生産工程の全部又は一部について共同で取り組む組織。
食料自給率	国内で消費される食料のうち、どの程度が国内産でまかなわれているかを表す指標。食料自給率には、単純に重量で計算することができる「品目別自給率」と、食料全体について共通の「ものさし」で単位を揃えることにより計算する総合食料自給率の2種類がある。このうち、総合食料自給率は、熱量で換算するカロリーベースと金額で換算する生産額ベースがある。
新規就農者	過去1年のうちに新たに就農したもので、年間150日以上従事する者。または、農業法人へ就職したものの。
水源のかん養	水田に貯えられた水は徐々に浸透して地下水となるほか、直接河川を流れるよりも長い時間をかけて下流の河川に戻される。このような地下水を豊かにする機能や川の流れを安定させる機能のこと。

【た行】

多面的機能	農業や農村が持つ生産機能以外の機能のこと。国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、私たちの生活に恩恵をもたらす機能が挙げられる。
多面的機能支払交付金	水路、農道、ため池等の地域資源を保全管理するための、地域の共同活動を支援する交付金。
地産地消	地域で生産された農林水産物をその地域内で消費する取り組み。食料自給率の向上や環境負荷の少ない社会の構築にも寄与する取り組み。
中山間地域	一般的には「平野部の周辺部から山間部に至る、まとまった平坦な耕地が少ない地域」とされている。



中山間地域等直接支払交付金	農業の生産条件が不利な地域における農業生産活動を継続するため、国及び地方自治体による支援を行う制度として、平成12年度から実施している。
地理的表示（GI）保護制度	地域には長年培われた特別の生産方法や気候・風土・土壌などの生産地の特性により、高い品質と評価を獲得するに至った産品が多く存在している。これら産品の名称(地理的表示)を知的財産として保護する制度のこと。
定年帰農	農村出身者が定年退職後に故郷の農村へ戻り、農業に従事すること。また、出身地を問わず、定年退職者が農村に移住し、農業に従事することをもいう。

【な行】

認定農業者	農業経営基盤強化法に基づき、意欲ある農業者が自らの経営を計画的に改善するために5年後を目標として作成した「農業経営改善計画」を市が認定した農業者のこと。
農業水利施設	農作物（米、野菜、果樹）を育てるために必要な水の安定供給、洪水による農業被害を防ぐ重要な役割を担っている施設。
農事組合法人	農産物の生産・加工・販売や農業経営などを共同で行うために設立される法人。
農地集積	特定の農業経営体が「所有」、「借入」、「農作業受託」により農地の利用を集約化すること。
農地所有適格法人	農地や採草放牧地を利用して農業経営を行うことのできる法人。
農地中間管理事業	地域ぐるみで担い手などへの農地の集積を進めるための支援事業のこと。当該事業を推進するため、平成25年12月13日に「農地中間管理事業の推進に関する法律」が制定された。
農地転用	農地に区画形質の変更を加えて住宅地や工業用地、道路、店舗などの用地に転換すること。
農林業センサス	我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査。

【は行】

バリューチェーン	事業活動を機能ごとに分類し、どの部分（機能）で付加価値が生まれているか、競合と比較してどの部分に強み・弱みがあるかを分析し、事業戦略の有効性や改善の方向を探ること。価値の連鎖とも言う。
人・農地プラン	集落・地域において徹底的な話し合いを行い、集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」となるプラン。
フードマイレージ	「食料の（=food(フード)）輸送距離（mileage(マイレージ)）」という意味。重量×距離（たとえばトン×キロメートル）で表す。食料の生産地から消費地までの距離に着目し、なるべく近くでとれた食料を食べること（地産地消）は、輸送に伴うエネルギーを出来るだけ減らし、環境への負担を軽減することになる。
ほ場整備	生産性の向上とともに農村環境の整備、地域活性化などを目的とする農地基盤の整備。

【ま行】

マルシェ	市場のこと。
木質バイオマス	「バイオマス」とは、家畜排泄物や生ごみなど、再生可能な、生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたものをいう。そのなかで、木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」と呼ぶ。

【や行】

有害鳥獣	人畜や農作物等に被害を与える鳥獣。
山口型放牧	山口県では、農地保全と飼養管理の省力化が図れる放牧に「山口型放牧」というブランド名をつけて、積極的に取り組んでいる。平成元年に全国に先駆けて、耕作放棄地を利用した画期的な放牧を開始した。畜舎周辺の棚田などで固定式の施設を用いて行う「水田放牧」と電気牧柵を用いて放牧場所を自由に移動していく「移動放牧」がある。
山口市元気いきいき推進計画	市民の健康づくりを総合的に推進するために策定した計画。



【ら行】

<p>ルーラル315・376フェスタ</p>	<p>国道315・376号沿線の道の駅や朝市等を広域的（山口市、周南市、阿武町）に結び、農山漁村の生産者と都市部の消費者との交流促進を目的としたイベント。</p>
<p>6次産業化</p>	<p>農業などの一次産業食品加工・流通・販売など経営の多角化を行うこと。農業経済学者が提唱した造語（一次産業×二次産業×三次産業）。</p>
<p>露地野菜</p>	<p>季節に合った方法により屋外で育てた野菜。</p>